

# 私 の 工 夫

国語科における主体的・対話  
的で深い学びの実現に向けて  
「書く工夫」

井原市立美星中学校

教諭 花房 美穂



## 1 はじめに

本校の令和三年度の研究テーマは、『学び合いを通して「わかった」「できた」「考えた」が実感できる授業づくり』である。生徒の考えや学びの変容について授業中の様子や発言、ノートの記述などが、単元ごとの振り返りシートを活用することで、より明確に一人ひとりの学びの変容が分かるようになってきたと感じている。現任校には赴任して三年目になるが、初年度から「書くこと」における授業作りに力を入れてきた。今回は「書くこと」に重点を置いた授業実践を紹介し、自身の授業を振り返り、考察する。

## 2 実践事例

どちらの実践も単元の最初に学習のねらいや進め方をつかませ、まとめの活動内容について生徒に見通しをもたせたいという授業を進めた。

### (1) 第一学年の取組

ポップ作りについて  
教材名『大人になれなかった弟たちに……』

作品の当時の時代背景をおさえたうえで、まず百字程度に感想をまとめさせ、最も印象に残った一文とその理由を書かせた。どちらも個人で書かせたあと、グループで読み合い、質問をし合ったり、参考になったものについて自分のワークシートにメモをさせたりした。全国学校図書館POPコ

ンテストの受賞作品を示すことで、ポップの役割や作り方について生徒は理解しやすかったようである。その際、イラストが目ではなく作品だけでなく、書かれている言葉が目を引く作品も示すことで、絵を描くことが苦手だと感じている生徒にとっても取り組みやすくなるようにした。『大人になれなかった弟たちに……』を読んだことがない人に向けてのポップを作るという設定で、ポップに書き込む言葉は事前に書いた感想や印象に残った言葉をもとに書かせた。完成したポップの下に、「ポップを作るにあたって工夫したこと」

「ポップで表現したかったこと」について書かせて作品を見せながら交流し、お互いにアドバイスやコメントをさせた。

ポップに書く言葉を厳選していく中で自分と他の人の考えを比較し、作品の主題や作者の思いに

迫ることができた。また、字体や配置など表現の仕方を工夫してポップ作りをすることができた。今回は戦争教材だったが、自分の好きな本や、異なるジャンルの本のポップを作ってみたいと意気込む生徒が多かった。

大人になれなかった弟たちに……

母は初めて泣きました。

大人になれなかった弟たちに…… ポップ作り

大人になれなかった弟たちに…… ポップ作り

ポップを作るにあたって工夫したこと

ポップで表現したかったこと

ポップ作品

## (2) 第二学年の取組

リライト作品作りについて  
教材名『盆土産』

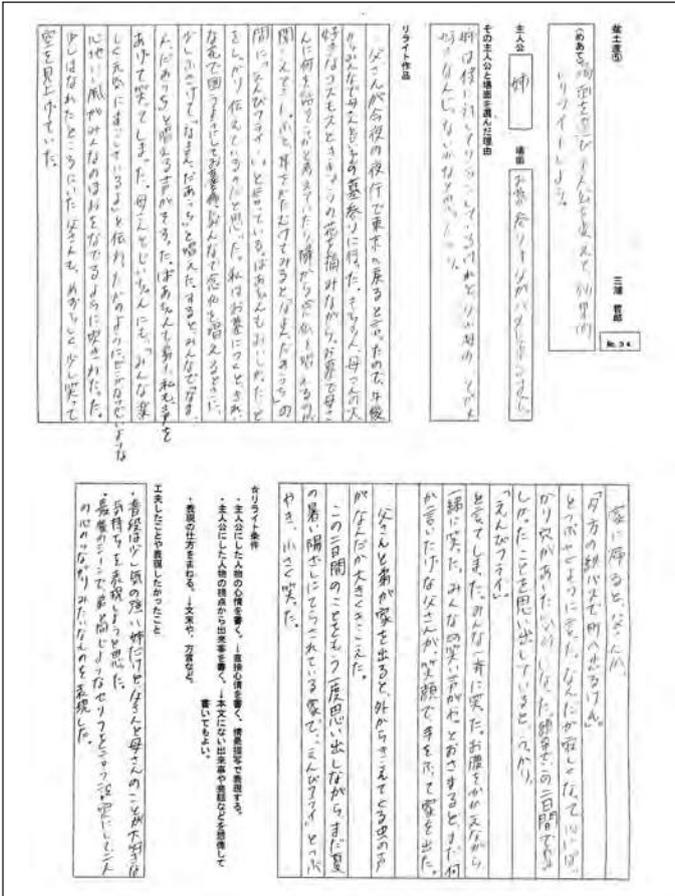
リライト（文章を読んで、目的に応じて創造的に書き換えること）については一年生の『少年の日の思い出』の授業の際に一度取り組んでいたのですが、見本は示さなかった。この単元では、主人公以外の父、姉、祖母の中から一人を選んでリライトすることとした。

作品の表現や会話の言葉遣いなどから、時代背景や舞台となつてい

る場所、それぞれの登場人物の性格について考えさせ意見を交流させた。リライトする人や場面を自由に選ばせたり、教科書には書かれていないセリフを加えさせたり

することで、リライト作品の自由度が広がったと考える。

異なる教材で同じ言語活動を行うことで、以前の生徒の取り組み方や作品と比較することができた。また、互いの作品を読み合いコメントを書き、伝え合うことで他の人から評価を受ける嬉しさや表現



リライト作品

・この物語を読んで、題名や母の一つ一つの言動に興味をもつことができました。今までに何度も戦争にまつわる本を読みました。しかし、この作品のように戦争を体験した本人が書き、自分の母の表情や家族のことについて表現している作品は読んだことがなかったので、他の作品とは違ってとても印象に残りました。

(中一)『大人になれなかった弟たちに……』

・特に姉と祖母の心情を読みとるのがすごく難しかったけれど、ちょっとした言動から読みとって最終的に祖母のリライトが書けたのでよかったです。この話に出てくる家族はみんな優しくあたたかみのある家族だと思いましたが、登場人物の人物や心情を書くときに、「面白いことや「なるほど」ということをみんなたくさん書いていてすごいなと思いました。

(中二)『盆土産』

することの楽しさを一層生徒が感じていたと思う。登場人物の言動から、性格やその時の心情を想像することは、小説の読み取りにおいても生かすことができる。と考える。

### 3 おわりに

この二つの実践において、生徒は自分と他の人の考えを比較しながら、教材に向かい合うことができている。授業の中で生徒同士の学び合いをするタイミングを多く設けているが、その際の机間指導

がとても大切だと考える。生徒と対話をしたり、他の生徒につなげたり、全体で共有したりと、生徒のつぶやきや疑問を見逃さないようにしていきたい。授業を作るうえで、ついつい自分が話すぎたり、多くのことを一つの単元に盛り込みたくなったりしてしまう。しかし、焦点を絞り、この単元で生徒にどのような力を身に付けさせたいか、そのためにどのような言語活動を設定しようかということとを今後も考え続け、生徒と一緒に国語を楽しみながら学べるように邁進していきたい。

単元全体の振り返りから